

第十一次基本計画 実施計画（目的指向体系表）

政策目標 4	心豊かな人を育み生涯にわたって学習できるまち
--------	------------------------

施策 4－1 教育環境の整備

施策 4－2 未来を創る教育の充実（小・中学校）

施策 4－3 生涯学習活動の推進

施策 4－4 青少年の健全な育成

施策 4－5 市民スポーツ活動の推進

施策 4－6 歴史・芸術文化の振興

施策 4－7 郷土愛の醸成

2 基本的な取組（2桁コード）・主な内容（4桁コード）				指標数	15	15	16	16	16	※ 基本的な取組・主な内容の達成状況	
				達成数	11	8	9	9	0		
				達成率	73.3%	53.3%	56.3%	56.3%	0.0%		
O1 小・中学校の規模と配置の適正化の推進			達成状況	指標数	1	1	2	2	2		
				達成数	1	1	2	2	0		
				達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%		
主な内容		管理指標	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
O101 「伊東市立小・中学校の規模及び配置の適正化に向けた基本方針」の実現	東・西・旭小3校の円滑な統合の実現	R1	目標値	協議会の開催	統合の実現	統合後のフォローアップの実施	統合後のフォローアップの実施	統合後のフォローアップの実施		実現	教育総務課
			基本方針の策定	実績値	2回開催	実現	実施済	実施済			
			評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成	○ 達成				
O102 新たな基本方針の検討	新たな基本方針の策定	— ※1	目標値	—	—	3校統合後の検証	後期方針内容の検討	新たな基本方針の策定		—	教育総務課
			実績値	—	—	検証済	検討済				
			評価	—	—	○ 達成	○ 達成				
年度評価	R3	O101 年4回開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により年2回の開催となった。									
		O102 —									
	R4	O101 統合地域協議会を3回開催し、了承を得た上で統合の実現を達成した。									
		O102 —									
	R5	O101 統合後の通学支援としてスクールバスの運行及び乗車場所での見守り、スクールバスを利用しない場合には路線バス通学定期券の10割補助を実施し、統合における通学の負担を可能な限り抑えた。									
		O102 東・西・旭小学校統合後に伊東小学校の教職員及び保護者を対象にアンケートを実施した。									
	R6	O101 伊東小学校の日課に応じた下校時間に対応できるよう、バス事業者と協議し、スクールバスの配車をした。									
		O102 後期方針の内容を検討するため、教育委員会の諮問機関である教育問題懇話会において審議し、答申を受けた。									

※1 令和5年度から着手するものであることから、基準値を一とした。

02	学校施設の環境整備及び老朽化対策		達成状況	指標数	4	4	4	4	4	単位	担当課
				達成数	1	1	1	0	0		
				達成率	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%		
主な内容		管理指標	基準値		R3	R4	R5	R6	R7		
0201	学校校舎トイレの改修（床の乾式化・洋式便器の増設等）	校舎内トイレの洋式化率	R2	目標値	55.0	65.0	75.0	85.0	100.0	%以上	教育総務課
			49.3%	実績値	51.5	61.8	68.0	73.0			
			評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成				
0202	映像装置のデジタル化改修	整備済学校の割合	R2	目標値	8/14	9/14	10/12	11/12	12/12	校以上	教育総務課
			6校/15校	実績値	6/14	6/14	6/12	6/12			
			評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成				
0203	校舎屋上防水工事の実施	実施済学校の割合	R2	目標値	8/14	9/14	10/12	11/12	12/12	校以上	教育総務課
			7校/15校	実績値	7/14	8/14	8/12	8/12			
			評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成				
0204	学校施設の長寿命化を図るための大規模修繕の検討	具体的な改修計画の策定	R2	目標値	1/14	1/14	1/12	2/12	2/12	校以上	教育総務課
			0校	実績値	1/14	1/14	1/12	1/12			
			評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成	× 未達成				
R3	0201	東小学校校舎トイレの洋式化を実施し、24基を整備したが、全体実績値は目標が達成できなかった。令和4年度は南小学校および門野中学校の校舎トイレの洋式化を実施し、目標の達成を図りたい。									
	0202	各教室のデジタルテレビ（電子黒板）の整備と併せて検討していく予定だったが、電子黒板のみの整備となった。次年度以降計画的に改修を行っていく。									
	0203	東小学校校舎屋上防水工事を実施しているが、実績値は達成できなかった。次年度以降計画的に改修を行っていく。									
	0204	東小学校校舎の改修計画を策定した。老朽箇所の把握や学校のあり方の要望調査に時間を要するためR4以降の目標値を変更した。									
R4	0201	南小学校及び門野中学校校舎トイレの洋式化を実施し、75基を整備したが、全体実績値は目標値を達成できなかった。令和5年度は南中学校の校舎トイレの洋式化を実施し、目標の達成を図りたい。									
	0202	各教室のデジタルテレビ（電子黒板）の整備と併せて検討していく予定だったが、目標値を達成できなかった。次年度以降計画的に改修を行っていく。									
	0203	東小学校校舎屋上防水工事を実施したが、実績値は達成できなかった。次年度以降計画的に改修を行っていく。									
	0204	東小学校校舎の改修を完了した。									
R5	0201	南中学校西側校舎トイレの洋式化を実施し、新たに25基を整備したが、全体実績値は目標値を達成できなかった。令和6年度は残る南中学校東側校舎トイレの洋式化を実施し、洋式化率の低い学校の改修を計画したい。									
	0202	各教室のデジタルテレビ（電子黒板）の整備と併せて検討していく予定だったが、目標値を達成できなかった。次年度以降計画的に改修を行っていく。									
	0203	東小学校校舎屋上防水工事を実施したが、実績値は達成できなかった。次年度以降計画的に改修を行っていく。									
	0204	伊東小学校（旧東小学校）校舎の改修を完了した。									
R6	0201	改修の実績はないが、次年度以降市内小・中学校の統合計画の進捗に合わせ、計画的に改修を行っていく。									
	0202	各教室のデジタルテレビ（電子黒板）の整備と併せて検討していく予定だったが、目標値を達成できなかった。次年度以降計画的に改修を行っていく。									
	0203	防水工事としての実績はないが、八幡野小学校屋上の老朽化が著しい部分について、修繕にて防水施工を行った。									
	0204	市内小・中学校の統合計画の進捗に合わせ、大規模修繕計画を検討していく。									

03 学校給食センターを最大限に活用した食育と地産地消の推進			達成状況	指標数	5	5	5	5	5		
			達成数	4	3	3	4	0			
			達成率	80.0%	60.0%	60.0%	80.0%	0.0%			
主な内容		管理指標	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
0301	今後の児童生徒数を見据えた学校調理場の集約	給食調理実施校（委託校を除く。）1校当たりの調理員（短時間パート職員を除く。）の配置人数	R1 11人／4校	目標値	2人以上	2人以上	2人以上	2人以上	2人以上	人	教育総務課
				実績値	8人／3校	8人／2校	5人／1校	5人／1校			
				評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成	○ 達成			
0302	安全安心な給食の提供	異物混入、アレルギー、食中毒等、給食を原因として人体に影響を及ぼす事故の発生件数（市内全校）	R1 0件	目標値	0	0	0	0	0	件	教育総務課
				実績値	0	0	0	0			
				評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成	○ 達成			
0303	魅力ある学校給食の提供	給食における残食率（市内全校）	R2 6.24%	目標値	対前年減	対前年減	対前年減	対前年減	対前年減	%	教育総務課
				実績値	7.55	8.02	9.27	8.23			
				評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成	○ 達成			
0304	学校給食を通じた食育の推進	給食の時間における食に関する年間指導計画の作成率	R2 13校／15校	目標値	14/14	14/14	12/12	12/12	12/12	校	教育総務課
				実績値	14/14	14/14	12/12	12/12			
				評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成	○ 達成			
0305	学校給食を活用した地産地消の推進	給食食材に占める市内産食材の使用割合（市内全校）	R2 5.0%	目標値	対前年増	対前年増	対前年増	対前年増	対前年増	%	教育総務課
				実績値	10.9	5.3	4.8	4.0			
				評価	○ 達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成			
R3	0301	R3年度2学期から富戸小学校を学校給食センター受配校とした。次年度は3校（東小・西小・旭小）統合により西小が廃校となることから、単独調理場は八幡野小だけとなる。今後も単独校の良さを活かした学校給食の提供を目指す。									
	0302	給食センターを拠点に情報の共有を図り、安心安全な給食提供の実現に努めた。R3年度は施設ごと、点検項目に沿った衛生管理について作業確認を実施し、八幡野小は研究授業方式による衛生管理研究会を開催して衛生意識の向上に努めた。									
	0303	献立のあり方について検討する会議を定期的に開催し、ふるさと給食や地産地消等を活用した魅力ある給食の提供を実施した。新型コロナウイルス感染症拡大による喫食方法（黙食）の影響を受けたことによると思われるが、過去で最も高い残食率となった。									
	0304	市内の小中学校で給食の時間や教科において、栄養教諭を中心に食育年間指導計画に沿った計画的な食指導を実施した。今後も給食関係職員が定期的に学校給食センターで情報交換を実施することにより、食育活動、食指導の推進を図りたい。									
	0305	地元農家をはじめ、農協や青果店などの協力もあり、地元で生産された野菜等を納入できる機会が増え、安定的に使用することができた。「地産地消推進事業」の活用により、使用回数・使用量も増加傾向にあり、今後も伊東産食材の積極的な活用を目指す。									
R4	0301	R5年度から東小・西小・旭小の統合により西小・旭小が廃校となり、伊東小学校となったことから、単独調理場は八幡野小だけとなった。単独校の良さを活かした学校給食、また、共同調理場、給食センターについては大量調理ならではの美味しい給食提供を目指す。									
	0302	給食センターを拠点に情報の共有を図り、安心安全な給食提供の実現に努めた。R4年度は衛生管理について研究会を開催することで作業確認を実施し、衛生意識の向上に努めた。									
	0303	献立のあり方について検討する会議を定期的に開催し、ふるさと給食や地産地消等を活用した魅力ある給食の提供を実施した。リクエスト給食を実施するなど、児童生徒の嗜好を考慮した献立作成を心がけ、残菜量の軽減にも取り組んだ。さらに、各校で食指導を行い、環境面や栄養面から残さないで食べるように児童生徒への指導を充実していく。									
	0304	市内の小中学校で給食の時間や教科において、栄養教諭を中心に食育年間指導計画に沿った計画的な食指導を実施した。今後も給食関係職員が定期的に学校給食センターを中心に情報交換をすることにより、食育活動、食指導の更なる推進を図りたい。									
	0305	地元農家をはじめ、農協や青果店など多方面の協力もあり、地元で生産された野菜等を納入できる機会が増え、年間を通じて安定的に使用することができた。「地産地消推進事業」の活用により、使用回数・使用量・野菜の種類も増加傾向にあり、今後も伊東産食材の積極的な活用を目指す。									
R5	0301	単独調理場は八幡野小だけとなった。令和5年度から幼稚園給食も始まり、八幡野小で調理した給食を運搬している。学校給食センターや共同調理場よりも食数が少ない直営の良さを活かした美味しさにこだわった学校給食を提供する。また、共同調理場、学校給食センターについては大量調理の利点を生かした給食提供を目指す。									
	0302	学校給食の衛生管理基準を遵守し、衛生管理研究会を開催することで衛生状態を把握して安心安全な給食を提供できるよう、衛生意識の向上に努めた。									
	0303	献立については共通献立の作成、各校の施設・設備、人員を考慮しての調整など、各校でふるさと給食や地産地消等を活用した魅力ある給食の提供を実施した。リクエスト給食を実施するなど、児童生徒の嗜好を考慮した献立作成を心がけ、残菜量の軽減に取り組んだが、調査時期に感染症の影響で残菜率の軽減とはならなかった。									
	0304	給食時にはICTを活用した食育を実践し、教科においても栄養教諭を中心に食育年間指導計画に沿った計画的な食指導を実施した。今後も給食関係職員が定期的に学校給食センターを中心に情報交換をすることにより、食育活動、食指導の更なる推進を図りたい。									
	0305	地元で生産された野菜の種類や量には限界があり、市内産の食材の活用率は低いままとなっている。学校給食用に魚の切り身を提供していた漁協からの購入がほとんどない状態であるが、今後も「地産地消推進事業」の活用により、使用回数・使用量・野菜の種類を増加できるよう、多方面に働きかけることで伊東産食材の積極的な活用を目指す。									
R6	0301	単独調理場は八幡野小学校1校となったが、八幡野幼稚園の給食を調理・運搬していることから、実態は共同調理場としての運営となっている。他施設よりも食数が少なく、直営の良さを生かした学校給食を提供したい。また、宇佐美小学校及び門野中学校の共同調理場、学校給食センターについては委託業者と連携を図り、大量調理の利点を生かした給食提供を目指す。									
	0302	学校給食の衛生管理基準及び大量調理マニュアルを遵守し、保健所の食品衛生監視指導での指摘事項を受けて改善計画を策定するなど、現施設の衛生状態を把握して安全・安心な給食を提供できるよう、衛生意識の向上に努めた。									
	0303	物価高騰の中、市内共通献立の作成や各施設・設備、人員を考慮して調整を図るなど、地産地消に向けた献立の作成を中心に、ふるさと給食の提供、魅力ある給食の提供に取り組んだ。各施設でリクエスト給食を実施するなど、児童生徒の嗜好を考慮した献立作成を心がけ、残菜量の軽減に取り組み、対前年比11.2%の残菜率減となったが、更なる軽減に向けて取り組む。									
	0304	食育年間指導計画に沿って食育を実践し、栄養教諭を中心に給食時間や授業における食指導を実施した。市教研学校給食部会を中心に食育活動を行い、情報交換をすることにより、食育活動、食指導の更なる推進を図り、児童生徒へ食に関する知識向上を目指す。									
	0305	伊東市内の野菜・くだものや魚類の生産量、漁獲量には限界があり、市内産の食材の活用率は増加傾向が見られない。伊東港で水揚げされた魚の切り身を提供していた漁協から購入できない状態であるが、今後も「地産地消推進事業」の活用により、使用回数・使用量・野菜の種類を増加できるよう、多方面に働きかけることで伊東産食材、県内産食材の積極的な活用を目指す。									

O4	最先端のICT教育環境整備の充実		達成状況	指標数	5	5	5	5	5	単位	担当課
				達成数	5	3	3	3	0		
				達成率	100.0%	60.0%	60.0%	60.0%	0.0%		
主な内容		管理指標	基準値		R3	R4	R5	R6	R7		
O401	児童生徒及び教職員1人1台端末環境の維持拡充	教員1人当たりの指導者用コンピュータ数	R1 0.40台	目標値	1	1	1	1	1	台	教育総務課
				実績値	1.03	1.05	1.07	1.07			
				評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成	○ 達成			
O402	校内LAN（無線LAN）環境の維持拡充	整備済学校の割合	R1 0%	目標値	100	100	100	100	100	%	教育総務課
				実績値	100	100	100	100			
				評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成	○ 達成			
O403	大型提示装置の小中学校の全普通教室・特別教室整備	整備済教室の割合	R1 35.2%	目標値	60.0	70.0	90.0	100	100	%	教育総務課
				実績値	64.7	62.0	69.0	69.0			
				評価	○ 達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成	以上		
O404	実物投影機の小中学校の全普通教室・特別教室整備（小学校）	整備済教室の割合	R1 35.2%	目標値	36.0	50.0	70.0	90.0	100	%	教育総務課
				実績値	40.4	36.6	43.6	43.6			
				評価	○ 達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成	以上		
O405	デジタル教材を活用できる環境の整備	児童生徒1人当たりの教育用コンピュータ数	R1 0.16台	目標値	1	1	1	1	1	台	教育総務課
				実績値	1.03	1.07	1.11	1.14			
				評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成	○ 達成	以上		
R3	O401 令和3年度の児童生徒数3,761人に対し、端末3,872台（令和3年度末）を整備した。										
	O402 無線LAN機器によるネットワーク障害が生じないよう校内無線LAN環境の維持を図った。										
	O403 令和3年度中に新たな大型提示装置は整備できなかったが、R2年度に中学校の普通教室及び一部特別教室に大型提示装置68台を整備したことにより目標を達成できた。										
	O404 令和3年度中に新たな実物投影機は整備できなかったが、教室数の減少により目標を達成できた。										
	O405 令和3年度の児童生徒数3,761人に対し、端末3,872台（令和3年度末）を整備した。										
R4	O401 令和4年度の教職員数291人に対し、端末307台（令和4年度末）を整備した。										
	O402 無線LAN機器によるネットワーク障害が生じないよう校内無線LAN環境の維持を図った。										
	O403 令和4年度中に新たな大型提示装置を8台設置したが、特別教室への整備が目標に達しなかった。また、年度ごとで使用している教室数が異なり、令和3年度と比較し整備済教室の割合が減少した。引き続き、大型提示装置を整備していく。										
	O404 令和4年度中に新たな実物投影機は整備できなかった。また、年度ごとで使用している教室数が異なり、令和3年度と比較し整備済教室の割合が減少した。引き続き、実物投影機の整備を実施していく。										
	O405 令和4年度の児童生徒数3,594人に対し、端末3,844台（令和4年度末）を整備した。										
R5	O401 令和5年度の教職員数287人に対し、端末306台（令和5年度末）を整備した。										
	O402 無線LAN機器によるネットワーク障害が生じないよう校内無線LAN環境の維持を図った。										
	O403 令和5年度中に新たな大型提示装置は整備できなかった。令和5年度から3校統合により、教室数は減少したため、実績値は上昇した。引き続き、学校現場に要望を確認し、必要に応じて大型提示装置の整備を進めていく。										
	O404 令和5年度中に新たな実物投影機は整備できなかった。令和5年度から3校統合により、教室数は減少したため、実績値は上昇した。引き続き、学校現場に要望を確認し、必要に応じて実物投影機の整備を進めていく。										
	O405 令和5年度の児童生徒数3,419人に対し、端末3,784台（令和5年度末）を整備した。										
R6	O401 令和6年度の教職員数283人に対し、端末302台（令和6年度末）を整備した。										
	O402 無線LAN機器によるネットワーク障害が生じないよう校内無線LAN環境の維持を図った。										
	O403 令和6年度中に新たな大型提示装置は整備できなかった。引き続き、学校現場に要望を確認し、必要に応じて大型提示装置の整備を進めていく。										
	O404 令和6年度中に新たな実物投影機は整備できなかった。引き続き、学校現場に要望を確認し、必要に応じて実物投影機の整備を進めていく。										
	O405 令和6年度の児童生徒数3,266人に対し、端末3,723台（令和6年度末）を整備した。										

2 基本的な取組（２桁コード）・主な内容（４桁コード）					指標数	18	20	20	21	21	※ 基本的な取組・主な内容の達成状況
					達成数	7	8	8	6	0	
					達成率	38.9%	40.0%	40.0%	28.6%	0.0%	
O1 「学びに向かう力」の育成			達成状況	指標数	6	6	6	6	6		
				達成数	1	3	1	1	0		
				達成率	16.7%	50.0%	16.7%	16.7%	0.0%		
主な内容		管理指標	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
O101 確かな学力の向上	全国学力学習状況調査(小6・中3)で国語・算数(数学)の平均ポイント(全国平均を100とした場合)	R2	小学校	目標値	99.5	100.1	100.7	101.4	102.0	ポイント以上	教育指導課
		98.9	実績値	96.7	99.0	92.5	95.3				
		R2	中学校	目標値	103.1	103.6	104.0	104.5	105.0	ポイント以上	教育指導課
		102.6	実績値	101.6	98.8	99.3	100.3				
O102 外国語教育の充実	「外国人や外国の文化に興味を持ち、積極的に接している」児童生徒の割合	R2	小学校	目標値	64.5	65.0	65.5	66.0	66.5	%以上	教育指導課
		64.0%	実績値	63.7	65.7	65.1	66.6				
		R2	中学校	目標値	55	60.0	60.5	61.0	61.5	%以上	教育指導課
		52.6%	実績値	54.5	53.7	53.3	53.8				
O103 ICT機器の効果的な活用	「授業の内容がよくわかる」と答えた児童生徒の割合	R2	小学校	目標値	90.5	91.0	91.5	92.0	92.5	%以上	教育指導課
		90.1%	実績値	90.7	91.2	91.7	90.8				
		R2	中学校	目標値	85.5	86.0	86.5	87.0	87.5	%以上	教育指導課
		85.0%	実績値	82.6	86.6	86.2	86.4				
年度評価	R3	O101 小中学校ともに目標値を下回っている。単純な問題よりも文章題等の応用力に課題があるため、普段の授業で文章を読み解く機会を設けるなど、応用力を付けられる課題の用意と文章への理解力を高められるようにしていく。									
		O102 小中学校ともに目標値をやや下回ったものの、英語の授業や総合的な学習の時間を中心にして、外国語を学んだり他国の文化に触れたりしている。今後は、コロナの感染状況を考慮しながら、ALTやゲストティーチャーを活用した授業等を取り入れていく。									
		O103 タブレット端末が導入され、授業での活用や家庭への持ち帰りを段階的に進めてきた。今後は、各校でICTの活用を進め、効果的な方法は市内の全学校で共有するなどして、教職員のスキルアップを図る。									
	R4	O101 基礎的な学力については身に付いていた。応用的な思考力が必要な問題を解くことに課題があるので、普段の授業の中で思考力を問うような課題を解決していく機会を設けていく。									
		O102 総合的な学習や英語の授業を通して、他国の文化に触れたり、外国を学んだりすることができた。今後はデジタル教科書やALTを効果的に活用した授業実践を進めていく。									
		O103 タブレット端末が導入され、授業での活用や家庭への持ち帰りを進めることができた。今後も、各校でICTの活用を進め、効果的な方法は市内の全学校で共有するなどして、教職員のスキルアップを図る。									
	R5	O101 実生活に基づいた応用的な思考力が必要となる問題が出題されるようになってきており、単純な問題よりも応用的な問題に対して課題がある。普段の授業の中で思考力を問うような課題を解決していく機会を設けていく。									
		O102 英語の授業を通して、ALTの活用を通して、他国の文化に触れたり、外国を学んだりしている。今後は、総合的な学習の時間などを効果的に活用し、外国の文化に触れられるような授業実践を進めていく。									
		O103 タブレット端末が導入されてから、継続して授業での活用や家庭への持ち帰りを進めている。今後も、各校でICTの活用を進め、効果的な方法は市内の全学校で共有するなどして、教員のスキルアップも併せて効果的な活用を進めていきたい。									
R6	O101 小・中学校ともに目標値を下回っているものの、中学校については全国平均を若干上回っている。普段の授業で文章を読み解く機会を設けるなど、応用力を付けられる課題の用意と文章への理解力を高められるようにしていく。										
	O102 ALTの活用を通して、他国の文化に触れたり、外国についての学習を進めている。今後は、総合的な学習の時間などを効果的に活用し、外国の文化に触れられるような授業実践を進めていく。										
	O103 タブレット端末が導入されてから、継続して授業での活用や家庭への持ち帰りを進めている。今後も、各校でICTの活用を進め、効果的な方法は市内の全学校で共有するなどして、教員・児童生徒のできることを増やしていきたい。										

02 「人として備えたい力（人間性）」の育成			達成状況	指標数	3	3	3	3	3		
				達成数	3	1	1	0	0		
				達成率	100.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%		
主な内容		管理指標	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
O201	社会性や規範意識の定着（あいさつの奨励）	「近所の人や知り合いの人にあいさつをしている」児童生徒の割合	R2 86.0%	目標値	87.0	88.0	89.0	90.0	91.0	% 以上	教育指導課
				実績値	87.1	87.1	88.4	89.1			
				評価	○ 達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成			
O202	自己肯定感を高めて思いやりの心の醸成（道徳教育の充実）	「友だちのことを思いやり行動することができる」児童生徒の割合	R2 91.0%	目標値	92.0	93.0	94.0	95.0	96.0	% 以上	教育指導課
				実績値	93.1	92.8	93.7	92.4			
				評価	○ 達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成			
O203	小中学校の各段階におけるキャリア教育の推進	「自分の思いや考えを回りに人に伝えることができる」児童生徒の割合	R2 78.6%	目標値	79.5	80.0	80.5	81.0	81.5	% 以上	教育指導課
				実績値	79.9	80.9	81.0	79.4			
				評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成	× 未達成			
R3	O201	継続した指導により、規範意識やあいさつ等の定着が進んでいる。コロナ禍の中で、しばらくは新しい生活様式が継続すると思われるが、地域や家庭との連携を工夫し、一層の定着を図っていく。									
	O202	道徳の教科化に伴い、考え議論する授業や適切な評価の実施により、子供の自己肯定感が高まってきている。今後は、道徳の授業の充実とともに、各教科で人権意識を高める授業を実践し、自他を尊重する態度を育成していく。									
	O203	学び手の視点で構想した授業の実施やICTの活用により、社会的自立の基盤となる能力や態度が育成されてきている。今後も授業改善を一層進め、これからの社会に求められる資質能力の育成を図っていく。									
年4度	O201	目標値は下回ったものの比較的あいさつに対する意識は高い。各学校であいさつ運動の工夫や推進をし、あいさつに対する意識を高めていく。									
	O202	目標値は下回ったものの相手の思いやる気持ちは育っている。今後も道徳授業や各教科で人権意識を高める授業を実践し自他を尊重する態度を育成していく。									
	O203	学び手の視点で構想した授業の実施やICTの活用により、社会的自立の基盤となる能力や態度が育成されてきている。今後も授業改善を一層進め、これからの社会に求められる資質能力の育成を図っていく。									
評価	O201	目標値は下回ったものの令和4年度より1.3ポイント上回っている。全体的に比較的あいさつに対する意識は高い。各学校であいさつ運動の工夫や推進をし、引き続きあいさつに対する意識を高めていく。									
	O202	目標値は下回ったものの、令和4年度より0.9ポイント上回っている。児童生徒の相手の思いやる気持ちは育っている。今後も道徳授業や各教科で人権意識を高める授業を実践し自他を尊重する態度を育成していく。									
	O203	学び手の視点を意識した授業の実施やICTの活用により、社会的自立の基盤となる能力や態度が育成されてきている。今後も学び手の視点を意識した授業改善を一層進め、これからの社会に求められる資質能力の育成を図っていく。									
R6	O201	目標値は下回ったものの前年度より0.7ポイント上回っている。各校の取組等を共有してあいさつ運動の工夫や推進をしていきたい。地域や家庭との連携を工夫し、一層の定着を図っていく。									
	O202	各学校行事などを通して、人権意識を高める活動を行っていくと共に、今後も道徳授業や各教科で人権意識を高める授業を実践し自他を尊重する態度を育成していく。									
	O203	目標値は下回ったものの、ICTの活用により、社会的自立の基盤となる能力や態度が育成されてきている。今後も学び手の視点を意識した授業改善を一層進め、これからの社会に求められる資質能力の育成を図っていく。									

03 「命を守る力」の育成			達成状況	指標数	2	2	2	3	3		
				達成数	1	1	0	1	0		
				達成率	50.0%	50.0%	0.0%	33.3%	0.0%		
主な内容		管理指標	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
0301	危険を未然に回避する力や緊急時の対応力の育成	地域防災訓練に参加した生徒の割合	— ※1	目標値	—	—	—	—	—	%	教育指導課
				実績値	—	—	—	—	—		
				評価	—	—	—	—	—		
0302	健康的な生活習慣の定着	「規則正しい生活ができている」児童生徒の割合	R2 80.4%	目標値	81.0	82.0	83.0	84.0	85.0	%	教育指導課
				実績値	81.6	79.0	79.3	80.6			
				評価	○ 達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成			
0303	運動能力の向上	新体力テスト（8種目）の結果が、県平均以上である種目の割合	R1 75.0%	目標値	75.5	76.0	76.5	77.0	77.5	%	教育指導課
				実績値	63.0	79.0	68.8	68.8			
				評価	× 未達成	○ 達成	× 未達成	× 未達成			
0304	危険を未然に回避する力や緊急時の対応力の育成	小・中学校における防災訓練の実施回数	— ※1	目標値	—	—	—	3	3	回	教育指導課
				実績値	—	—	—	3			
				評価	—	—	—	○ 達成			
年度 評価	0301 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から令和3年度は未実施。										
	R3	0302 新しい生活様式が定着し、衛生面や規則正しい生活の重要性が認識されてきている。今後も家庭との連携や健康に関する情報の提供を進め、一層の定着を図っていく。									
		0303 小学生の持久力や俊敏性が県平均に劣るので、コロナ禍の中でも工夫をして、体育の授業をはじめ学校生活の中で体を動かす機会を設けて運動をすることで持久力や俊敏性を身に付けられるようにしたい。									
	R4	0301 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中学生の参加を見送る地区が多く見られたため、令和4年度目標値は「一」とし、令和4年度に調査した結果を基に令和5年度から令和7年度の目標値を設定する。									
		0302 新しい生活様式が定着し、衛生面や規則正しい生活が認識されてきた。今後も家庭との連携や健康に関する情報の提供を進め、一層の定着を図っていく。									
		0303 引き続き、運動に興味を持ち、好きになれるような取組を体育の授業の中に取り入れていく。									
	R5	0301 地域防災訓練が令和5年度より日曜日実施となったことにより、生徒への参加の促しをしなくなったことや参加者の把握ができなくなったため、実績値を「一」とした。そのため、管理指標0301を廃止し、新たに管理指標0304を設定した。									
		0302 令和4年度に比べ0.3%上回っている。規則正しい生活ができている児童生徒は増えている。今後も家庭との連携や健康に関する情報の提供を進め、一層の定着を図っていく。									
		0303 中学校はほとんどの種目で全国平均を上回るが、小学校では上回る種目が半数にとどまっていた。中学校は、現在の取組を継続し、小学校では、運動に興味を持ち、好きになれるような取組を体育の授業の中に多く取り入れていく。									
	R6	0302 80%を超えたものの、達成には至らなかった。「早寝早起き」の部分で課題が多くあるため、スマートフォンの使い方の指導等も含め、継続的に指導していく必要がある。									
		0303 小学生は俊敏性が、中学生は柔軟性や跳躍力が県平均に劣る。小学校では、運動に興味を持ち、好きになれるような取組を体育の授業の中に多く取り入れていく。中学校では、体育の時間や部活動の時間などで身に付けていきたい。									
		0304 各小・中学校で年間に実施された防災訓練は3回となり達成した。内容については「地震」「火災」を中心に、立地環境を基に学校独自に「津波」「土砂災害」も実施されている。より「自分ごと」として捉えられる避難訓練の実施に取り組んでいきたい。									

※1 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から令和2年度及び令和3年度の地域防災訓練は未実施となった。地域防災訓練が令和5年度より日曜日実施となったことにより、生徒への参加の促しをしなくなったことや参加者の把握ができなくなったため、管理指標0301を廃止し、新たに管理指標0304を設定した。

O4 教育的支援体制の充実			達成状況		指標数	5	6	6	6		
					達成数	1	2	3	2	0	
					達成率	20.0%	33.3%	50.0%	33.3%	0.0%	
主な内容		管理指標	基準値			R3	R4	R5	R6	R7	単位 担当課
O401 支援員の適正な配置	教育的支援が必要な児童生徒に対する支援員の割合	R2 7.9%	目標値	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	% 以上	教育指導課	
			実績値	10.2	11.6	10.5	10.9				
			評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成	○ 達成				
O402 教職員の研修強化	特別支援教育に関する研修会を通じて特別支援教育への知識や理解が深まったと感じた参加者の割合	R3 100%※2	目標値	—	95.0	95.0	95.0	95.0	% 以上	教育指導課	
			実績値	100.0	100.0	100.0	100.0				
			評価	—	○ 達成	○ 達成	○ 達成				
O403 校内及び市就学支援委員会の充実	市就学支援委員会の判定に基づき、適正に就学した児童生徒の割合	7.9 65.1%	目標値	66.0	66.5	67.0	67.5	68.0	% 以上	教育指導課	
			実績値	63.0	62.7	68.9	66.7				
			評価	× 未達成	× 未達成	○ 達成	× 未達成				
O404 いじめ対策の推進	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う児童生徒の割合	R2 96.0%	目標値	97.0	98.0	99.0	100	100	% 以上	教育指導課	
			実績値	96.0	95.9	97.2	96.7				
			評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成				
O405 不登校対策の推進	不登校児童生徒の出現率	R2 1.62%	小学校	目標値	1.57	1.52	1.47	1.42	1.37	% 以下	教育指導課
			実績値	2.43	2.69	4.78	4.91				
		R2 5.26%	中学校	目標値	5.21	5.16	5.11	5.06	5.01	% 以下	教育指導課
			実績値	6.75	7.06	7.19	8.63				
			評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成				
			評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成				
R3	O401 目標値は上回ったものの、今後も更なる支援員配置の充実を図るため、業務内容や雇用形態等を研究していく。										
	O402 R3は目標値の設定ができていなかったため、評価は「—」とした。今後も専門的な知識が深まるような研修の実施に努める。										
	O403 園、学校が市で雇用している特別支援教育アドバイザー訪問の活用をしたり、特別支援学校職員の巡回相談を利用したりしながら、保護者との面談を積み重ね、円滑な就学支援を進めていく。										
	O404 目標値を下回ったものの、子供たちのいじめに対する意識は高い。道徳授業の充実等により、子供の人権感覚を一層高め、学校全体でいじめを許さない雰囲気をつくり、未然防止に努めていく。										
	O405 不登校児童生徒の出現率は、全国的にも悪化の一途を辿っており、学校だけでできることも限られるので、来年度以降は福祉や外部機関と学校との連携を深めることで出現率の悪化に歯止めをかけていきたい。										
R4	O401 目標値を達成することができたが、特別な支援を必要としている児童生徒は増加傾向にあるため、今後も丁寧に実態調査を行い、指導の充実を図っていく。										
	O402 特別支援教育コーディネーターや特別支援教育支援員等を対象とした研修会を複数回実施した。教職員の特別支援教育への関心は高く、研修の必要性を実感しているため、今後も研修の充実を図っていく。										
	O403 市就学支援委員会が審議する件数は増加傾向にある。今後も、市特別支援アドバイザーの巡回相談等を効果的に活用し、適正な判定につなげていく。										
	O404 目標値は下回ったものの子供たちのいじめに対する意識は高い。子供たちの人権感覚を高めるためにも道徳教育の充実等を図っていく。学校全体でいじめは許さない雰囲気をつくり、未然防止に努めていく。										
	O405 不登校出現率は昨年度より増加しているが、全国や県の増加率より増え幅は小さくなっている。これ以上出現率が増えないよう、新規の不登校児童生徒が出ないように初期の対応を大切にしていきたい。										
R5	O401 目標値は上回ったものの、今後も更なる支援員配置の充実を図るため、業務内容や雇用形態等を研究していく。また、支援員のスキルアップのための研修も実施していく。										
	O402 市内における特別な支援を必要とする児童生徒は年々増加傾向にある。教職員の特別支援教育への関心は高く、研修の必要性を実感しているため、今後も研修の充実を図っていく。										
	O403 就学支援を必要とする児童は増加傾向にあり、園内・校内の就学支援に対し、特別支援アドバイザー派遣事業を継続して行い、円滑な就学支援につなげていく。										
	O404 昨年度と同様に、目標値は下回ったものの子供たちのいじめに対する意識は高い。子供たちの人権感覚を高めるためにも道徳教育の充実等を図っていく。学校全体でいじめは許さない雰囲気をつくり、未然防止に努めていく。										
	O405 昨年度と同様に、不登校出現率は前年度より増加しているが、全国や県の増加率より増え幅は小さくなっている。これ以上出現率が増えないよう、新規の不登校児童生徒が出ないように初期の対応を大切にしていきたい。										
R6	O401 目標値を達成できた。しかし、特別な支援を必要としている児童生徒は増加傾向にあるため、今後も丁寧に実態調査を行い、指導の充実を図っていく。										
	O402 特別な支援を必要とする児童生徒の数は増加する一方である。通常学級の担任が特別支援教育に係る知識技能を身に付けられるように、さらに研修を充実させていきたい。										
	O403 就学支援を必要とする児童は年々増加傾向にある。園内・校内の就学支援に対し、特別支援アドバイザー派遣事業を継続して行い、円滑な就学支援につなげていく。										
	O404 目標値は下回ったものの子供たちのいじめに対する意識は高い。道徳教育を中心に学級でしっかり注意していくことが大切である。学校全体でいじめは許さない雰囲気をつくり、未然防止に努めていく。										
	O405 昨年度と同様に、不登校出現率は前年度より増加している。児童生徒が安心して生活できる環境を整えることで、登校できるように促していきたい。										

※2 令和3年度から新たに調査したため、令和3年度に実施する調査の実績値を基準値とした。

O5 地域社会との連携推進			達成状況	指標数	2	3	3	3	3		
				達成数	1	1	3	2	0		
				達成率	50.0%	33.3%	100.0%	66.7%	0.0%		
主な内容		管理指標	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
O501	郷土愛の醸成	本市のことが好きと答えた児童生徒の割合	R3 89.0% ※3	目標値	—	89.2	89.5	89.7	90.0	%	教育指導課
				実績値	89.0	89.0	90.9	88.7			
				評価	—	× 未達成	○ 達成	× 未達成			
O502	地域活動への積極的な参加	地域で行われる活動に積極的に参加している児童生徒の割合	R2 60.5%	目標値	61.0	62.0	63.0	64.0	65.0	%	教育指導課
				実績値	58.0	59.9	65.5	65.8			
				評価	× 未達成	× 未達成	○ 達成	○ 達成			
O503	学校運営に関する情報発信	地域の広報誌や掲示板、公共施設等で情報発信している学校の割合	R2 80.0%	目標値	85.0	90.0	95.0	100	100	%	教育指導課
				実績値	100	100	100	100			
				評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成	○ 達成			
R3	O501	社会科の授業や地域学習を通して、子供たちは伊東市の特徴や他地域との違いを知り、良さや愛着を感じている。今後も、発達段階に応じた地域学習を実施するとともに、コロナ禍の感染状況を考慮しながら、地域人材の活用を進めていく。R3は目標値の設定ができていなかったため、評価は「—」とした。									
	O502	新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、地域の行事自体が中止になることが多く、児童・生徒の地域行事への参加機会は限定されてしまった。学校は、可能な方法で地域人材を活用するなど地域とのつながりを持つための工夫はしているが、感染防止の観点から難しい面も多い。									
	O503	全校が回覧板や地域の掲示板を通じて情報発信をした。今後も継続して情報を発信していく。									
R4	O501	生活科や社会科などの地域学習を通して、子供たちは伊東市の特徴や他地域との違いを知り、郷土愛を育んでいる。今後も発達段階に応じた地域学習を実施するだけでなく、地域人材の活用を進めていく。									
	O502	新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、地域の行事自体が中止になることが多く、児童・生徒の地域行事への参加機会は限定されてしまった。今後、学校では地域人材を活用するなど地域とのつながりを持つための工夫をしていく。									
	O503	学校だよりを通じて、各校の教育活動を地域の方に情報発信することができた。地域総がかりで子どもを育てていくという理念のもと、令和5年度も継続して地域への情報発信を大切にしていきたい。									
R5	O501	令和4年度よりも1.9ポイント上回っている。社会科や生活科などの地域学習を通して、子供たちは伊東市の特徴や他地域との違いを知り、良さや愛着を感じている。今後も、発達段階に応じた地域学習を実施するとともに、地域人材の活用を進めていく。									
	O502	地域の行事が再開する地域が増えたことで、児童・生徒の地域行事への参加機会も増加した。今後、学校では地域人材を活用するなど地域とのつながりを持つための工夫をしていく。									
	O503	学校だよりや学校HPを通じて、各校の教育活動を地域の方に情報発信することができた。令和6年度も継続して地域への情報発信を大切にしていきたい。									
R6	O501	令和5年度よりも2.2ポイント減少した。総合的な学習や、地域と連携した学習活動を通して、さらなる地域への思いを醸成していく取組を推進していきたい。									
	O502	目標値を達成した。地域組織が衰退していく現状であるが、学校が地域と共に子どもたちを育てていける環境づくりを推進していくことが必要である。									
	O503	学校だよりやホームページ等を通じて、開かれた学校教育をさらに実践していく。									

※3 令和3年度から新たに調査したため、令和3年度に実施する調査の実績値を基準値とした。

担当課	生涯学習課	施策4-3の全指標達成率					
政策目標	4 心豊かな人を育み生涯にわたって学習できるまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7
施策分野	3 生涯学習活動の推進	指標数	11	11	11	11	11
目指す姿	市民が生涯にわたる学びや活動に参加し、豊かさを享受できる	達成数	2	2	2	2	0
		達成率	18.2%	18.2%	18.2%	18.2%	0.0%

1 成果指標（K P I）				指標数	2	2	2	2	2		
				達成数	0	0	0	0	0		
				達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
成果 指標 1	「生涯学習活動の推進」に満足している市民の割合（市民満足度調査）	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
		R2	目標値	75.3	75.9	76.6	77.2	78.0	% 以上	生涯学 習課	
		74.7%	実績値	72.8	69.4	61.4	61.3				
			評 価	× 未達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成				
目標値 の 考え方	市民満足度調査を参照することにより、市民の中から無作為に抽出された広範囲の皆様の意見や評価を把握することが可能となるため。										
成果 指標 2	市民一人当たりの図書貸出冊数	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
		R1	目標値	2.88	2.92	2.95	3.28	3.76	冊 以上	生涯学 習課	
		2.81冊	実績値	2.70	2.57	2.50	1.89				
			評 価	× 未達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成				
目標値 の 考え方	総貸出数を新図書館の開館に向けた令和5年度までは毎年度1,000冊、開館年度となる令和6年度は20,000冊、令和7年度は30,000冊増やすことを目標とする。なお、人口数は今後の人口減少を想定し毎年度500人減で算出している。（基準値：総貸出数＝令和元年度192,472+1,000冊÷193,500冊①、人口＝令和元年度人口平均68,505人－500人÷68,000人②から、①÷②÷2.85冊）										
R 3 年 度	1（実績評価）・新型コロナウイルス感染症拡大の状況から、各種講座等について中止せざるを得ない状況が発生したことも影響したものと考えている。 （次年度修正点）・withコロナを踏まえ、感染対策を的確に実施し、事業をできる限り展開することで、市民の皆様の満足度向上が図られるよう努める。										
	2（実績評価）・新型コロナウイルス感染症拡大の状況から、来館者数が減少したことも影響したものと考えている。 （次年度修正点）・新型コロナウイルス感染症に対する感染対策を的確に実施しながら、より多くの市民が利用できるよう蔵書構成に努める。										
R 4 年 度	1（実績評価）・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、各種講座等への参加が減少したことが影響したものと考えている。 （次年度修正点）・新型コロナウイルス感染症の取り扱いが5類へと移行するのを踏まえ、市民の皆様の満足度向上につながるような各種講座の実施に努める。										
	2（実績評価）・新型コロナウイルス感染症拡大の状況から、来館者数が減少したことも影響したと考えている。 （次年度修正点）・より多くの市民が手に取りたくるように企画展示など配架に工夫をし、多くの市民が利用しやすくなるような図書館運営に努める。										
R 5 年 度	1（実績評価）・コロナ禍で休止及び解散した団体が多く、コロナ前に比べ、活動団体が減っていることが原因と考えている。 （次年度修正点）・市民が団体を検索しやすく、また参加しやすい情報提供を心掛け、市民満足度の向上が図れるよう努める。										
	2（実績評価）・来館者数は増加しているが、貸出冊数の増加にまで結びついていないと考えている。 （次年度修正点）・今後も、企画展示など配架に工夫をし、より多くの市民が手に取り、読みたいと感じるような図書館運営に努める。										
R 6 年 度	1（実績評価）・市民ニーズの高い事業を実施できるよう毎年内容を見直しており、情報発信についても、積極的にSNS等を活用しているが、目標に達していないことに鑑みると、周知が一定の人のみにしか伝わっていない可能性があると考え。また、施設の老朽化による故障など環境整備の状況も満足度が上がらない原因と考える。 （次年度修正点）・より多くの方に情報が行き届くよう、年代により発信方法を変更する等、研究、実施していく。また、施設の老朽化については、計画的な修繕を実施するなど活動場所の環境整備を心掛ける。										
	2（実績評価）・図書館の外壁が崩落し、令和6年12月19日から令和7年3月31日までの間、図書館を臨時休館したことが、来館者数及び貸出冊数が大幅に減少した主な原因であると考え。 （次年度修正点）・時勢・トレンドを反映した選書や蔵書構成について考慮するとともに、企画展示など図書資料の配架に工夫をし、多くの市民が本を手に取り、読みたいと感じられるような図書館運営に努める。										

O4 次世代を担うリーダーの育成			達成状況	指標数	3	3	3	3	3		
				達成数	3	3	3	3	0		
				達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%		
主な内容		管理指標	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
O401	リーダー育成機会の拡大（夢チャレンジくらぶの開催）	ふるさと教室を経て、夢チャレンジくらぶに参加した者の割合	R1 40.5%	目標値	33.3	40.0	40.0	40.0	40.0	%	生涯学習課
				実績値	37.7	52.0	42.5	70.0			
				評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成	○ 達成			
O402	少年教育の推進（小学生ふるさと教室の開催）	小学生ふるさと教室の参加者数	R1 40人	目標値	40	40	40	40	40	人	生涯学習課
				実績値	50	40	40	40			
				評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成	○ 達成			
O403	年少者を指導する中高生の育成（静岡県初級・中級青少年指導者認定者事業の推進）	夢チャレンジくらぶの参加者のうち、静岡県青少年指導者認定を受けた者の割合	R1 52.9%	目標値	52.9	55.6	55.6	55.6	55.6	%	生涯学習課
				実績値	82.6	84.6	94.1	85.7			
				評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成	○ 達成			
R3	O401	新型コロナウイルス感染症拡大の状況の中、可能な限り事業を推進することで、目標を達成した。引き続き、ふるさと教室を経由して夢チャレンジくらぶへと進む流れを構築していく。									
	O402	ふるさと教室については、年々応募者が増加し令和3年度は抽選となった。新型コロナウイルス感染症拡大の状況においても、当該事業への参加意欲が高いため、引き続き事業のブラッシュアップを図っていく。									
	O403	令和2年度までに静岡県青少年指導者認定を受けた者が令和3年度の夢チャレンジくらぶに13人参加したこと、令和3年度の夢チャレンジくらぶに新たに参加した10人のうち6人が指導者認定を受けたことから、目標値を大きく上回ることができた。引き続き新規参加者を募る中、級別認定者を増やすことで、次世代を担うリーダーの育成に努める。									
R4	O401	ふるさと教室参加希望者が年々増加し、夢チャレンジくらぶ生として参加を希望する生徒が増えているため、引き続きこの流れを推進していく。									
	O402	ふるさと教室については、年々応募者が増加し令和4年度は、定員40人に対し約100人を超える143人の応募があった。当該事業への参加意欲が非常に高いため、引続き事業のブラッシュアップを図っていきたい。									
	O403	令和3年度までに静岡県青少年指導者認定を受けた者が令和4年度の夢チャレンジくらぶに13人参加したこと、令和4年度の夢チャレンジくらぶに新たに参加した13人のうち9人が指導者認定を受けたことから、目標値を大きく上回ることができた。引き続き新規参加者を募る中、級別認定者を増やすことで、次世代を担うリーダーの育成に努める。									
R5	O401	ふるさと教室参加希望者は高水準で推移しており、夢チャレンジくらぶ生として参加を希望する生徒が増えているため、引き続きこの流れを推進していく。									
	O402	前年度から減少はしたものの、定員40人に対し約90人の応募があった。当該事業への参加意欲が非常に高いため、引き続き事業のブラッシュアップを図っていきたい。									
	O403	令和5年度中に新規に指導者認定を受けた者が10人いたことから、目標値を大きく上回ることができた。今後も次世代を担うリーダーの育成に努める。									
R6	O401	ふるさと教室で貴重な体験をした小学生が継続して夢チャレンジくらぶに参加する流れが構築され、令和6年度は過去4年で最も多い28人の中高生が夢チャレンジくらぶに参加したことから、目標値を大きく上回ることができた。									
	O402	やや減少はしたものの、依然として定員40人を上回る応募があり目標を達成できた。引き続き事業のブラッシュアップを図っていく。									
	O403	新規に指導者認定を受けた者が17人おり、目標値を大きく上回ることができた。今後も次世代を担うリーダーの育成に努める。									

担当課	生涯学習課	施策４－５の全指標達成率					
政策目標	4 心豊かな人を育み生涯にわたって学習できるまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7
施策分野	5 市民スポーツ活動の推進	指標数	7	8	8	8	8
目指す姿	市民が気軽に快適にスポーツに取り組むことができ、生涯にわたって健康を維持することができる	達成数	3	2	3	2	0
		達成率	42.9%	25.0%	37.5%	25.0%	0.0%

1 成果指標（KPI）			指標数	1	1	1	1	1		
			達成数	0	0	0	0	0		
			達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
成果指標 1	「市民スポーツ活動の支援」に満足している市民の割合（市民満足度調査）	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
		R2	目標値	74.5	76.0	77.5	78.5	80.0	%以上	生涯学習課
		73.3%	実績値	72.7	68.7	68.2	70.4			
			評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成			
目標値の考え方	市民満足度調査を参照することにより、市民の中から無作為に抽出された広範囲の皆様の意見や評価を把握することが可能となるため。									
R3年度	(実績評価) ・新型コロナウイルス感染症予防のため、社会体育施設の臨時閉館やイベントの中止などが重なった影響によるものであると考える。 (次年度修正点) ・withコロナを踏まえ、感染対策を的確に実施し、事業をできる限り実施することで、市民の皆様の満足度向上が図られるよう努める。									
R4年度	(実績評価) ・新型コロナウイルス感染症予防のため、社会体育施設の利用制限や各種教室・大会の中止など、コロナ禍において活動に制限が課された点やスポーツをする機会が減った影響によるものであると考える。 (次年度修正点) ・新型コロナウイルスの感染症法上の分類が5類へと移行するのを踏まえ、社会体育施設における利用制限の見直しや事業実施ができるよう進めていく。									
R5年度	(実績評価) ・コロナ禍で実施していた社会体育施設の利用制限に関しては撤廃したものの、廃校となった旧伊東高等学校、同城ヶ崎分校の利用が一部できなくなった影響もあると考えられる。 (次年度修正点) ・高校跡地の利活用に関しても、短期的な利用ができるように調整することと同時に、長期的なビジョンに関しても検討し、他分野においても満足度の向上につなげられるよう努める。									
R6年度	1 (実績評価) ・目標値は下回ったものの、老朽化した大原武道場トレーニング室の機器更新や、ニュースポーツふれあいフェスタの誘致により、市民満足度が上昇したと考えられる。 (次年度修正点) ・引き続き老朽化した施設及び機器の更新に努めるとともに、ポッチャを始めとするニュースポーツの普及に努める。									

2 基本的な取組（2桁コード）・主な内容（4桁コード）				指標数	6	7	7	7	7	※ 基本的な取組・主な内容の達成状況	
				達成数	3	2	3	2	0		
				達成率	50.0%	28.6%	42.9%	28.6%	0.0%		
O1 スポーツ団体の支援			達成状況	指標数	2	2	2	2	2		
				達成数	2	1	1	1	0		
				達成率	100.0%	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%		
主な内容		管理指標	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
O101	スポーツ団体の活動支援	スポーツ協会加盟団体数 ※4	R1 26団体	目標値	26	26	26	26	26	団体以上	生涯学習課
				実績値	26	26	24	24			
				評価	○ 達成	○ 達成	× 未達成	× 未達成			
O102	スポーツに取り組む市民の活動支援	スポーツ賞賜金交付人数	R1 31人	目標値	32	34	36	38	40	人	生涯学習課
				実績値	36	30	47	47			
				評価	○ 達成	× 未達成	○ 達成	○ 達成			
年度評価	R3	O101 令和3年度は目標値を達成することができたが、引き続き加盟団体への支援及び新規加盟促進を図っていく。									
		O102 令和3年度は個人20件と団体2件の延べ36人にスポーツ賞賜金を交付した。今後も効果的な活用がされるよう、広く周知を図っていく。									
	R4	O101 令和4年度は目標値を達成することができた。引続き加盟団体への支援及び加盟団体数の維持向上が図られるよう新規加盟の促進に関しても実施していく。									
		O102 令和4年度は個人30件の交付にとどまった。コロナ禍において体調不良や感染の影響によりやむなく出場を断念した者があることも減少の一因である。今後も効果的な活用がなされるよう、広く周知を図っていく。									
	R5	O101 令和5年度は目標値を達成することができなかった。体育協会と連携して、団体加盟するメリット等を周知していく。									
		O102 令和5年度は個人47件の交付となり、目標値を11件上回った。大会開催数がコロナ禍以前の水準に戻りつつあること、出場者の父母の”横のつながり”で賞賜金の制度が周知されたことが目標を上回る要因となった。									
R6		O101 令和6年度は目標値を達成することができなかった。本市スポーツ振興の要となる会員を増やすため、加入促進に努める。									
		O102 令和6年度は個人47件の交付となり、目標値を9件上回った。賞賜金の制度の周知が進み、例年、申請がなかった競技種目の出場選手からも申請があり、目標を上回る要因となった。									

※4 伊東市体育協会は令和7年6月より「一般社団法人伊東市スポーツ協会」に名称を変更した。

担当課	生涯学習課・企画課	施策４－６の全指標達成率					
政策目標	4 心豊かな人を育み生涯にわたって学習できるまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7
施策分野	6 歴史・芸術文化の振興	指標数	10	10	10	10	10
目指す姿	市民が歴史、芸術文化に触れ、心を豊かにするとともに、後世に伝えることができる	達成数	2	2	2	2	0
		達成率	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%

2 基本的な取組（2桁コード）・主な内容（4桁コード）				※ 基本的な取組・主な内容の達成状況					
				指標数	8	8	8	8	8
				達成数	2	2	2	2	0
				達成率	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%
O1 文化財の保護・保存			達成状況	指標数	3	3	3	3	3
				達成数	1	1	1	1	0
				達成率	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%
主な内容		管理指標	基準値		R3	R4	R5	R6	R7
O101	指定文化財等への保護 や支援	指定文化財及び 無形民俗文化財 保存団体登録件数	R2	目標値	66	67	67	68	68
			66件	実績値	67	67	68	68	
		補助金交付件数	R1	目標値	41	41	42	42	43
			41件	実績値	40	38	34	37	
O102	史跡江戸城石垣石丁場 跡保存活用計画に沿っ た施策実施	計画内経過観察項目 達成件数 （全24項目）	—	目標値	24	24	24	24	24
			※6	実績値	6	7	7	7	
			評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成	○ 達成		
			評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成		
R3	O101 指定文化財及び無形民俗文化財保存団体登録件数は目標を達成したが、補助金の交付件数は目標に至らなかった。次年度以降は、指定文化財の所有者等に各種補助金の周知を図り、文化財保護の推進に努める。								
	O102 令和3年9月発行の『史跡江戸城石垣石丁場保存活用計画書』をもとに実施したが、目標値を達成するには至らなかった。なお、計画書の概要版と市内の石丁場を解説したパンフレットを作成した。令和4年度は整備活用計画の準備を進めながら、展示等で活用を行っていく。								
R4	O101 指定文化財及び無形民俗文化財保存団体登録件数は目標を達成したが、補助金の交付件数は目標に至らなかった。引き続き、指定文化財の所有者等に各種補助金の周知を図り、文化財保護の推進に努める。								
	O102 目標値を達成するには至らなかったが、民間団体と協力して子ども向けの教材を開発するなど、進展も見られた。令和5年度は整備活用計画の準備を進めながら、展示等で活用を行っていく。								
R5	O101 指定文化財及び無形民俗文化財保存団体登録件数は目標を達成したが、補助金の交付件数は目標に至らなかった。引き続き、指定文化財の所有者等に各種補助金の周知を図り、文化財保護の推進に努める。								
	O102 目標値を達成するには至らなかった。引き続き整備基本計画の準備を進めながら、展示等で活用を行っていく。								
R6	O101 指定文化財及び無形民俗文化財保存団体登録件数は目標を達成したが、補助金の交付件数は目標に至らなかった。引き続き、指定文化財の所有者等に各種補助金の周知を図り、文化財保護の推進に努める。								
	O102 目標を達成するには至らなかった。引き続き整備基本計画の準備を進めながら、展示や講座等で周知する。								

O2 歴史に触れる機会の提供				達成状況	指標数	2	2	2	2	2		
					達成数	0	0	0	0	0		
					達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
主な内容		管理指標	基準値			R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
O201	歴史講座及び出前講座並びに講演会の充実	歴史・文化に関するイベントの来場者数	R1 10,302人	目標値	10,450	10,600	10,750	10,900	11,000		人 以上	生涯学習課
				実績値	890	6,859	7,269	8,368				
				評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成				
O202	木下圭太郎記念館及び文化財管理センターの充実	施設入場者数	R1 7,714人	目標値	7,760	7,820	7,880	7,940	8,000		人 以上	生涯学習課
				実績値	2,663	4,560	4,697	4,884				
				評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成				
年度 評価	R3	O201 新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、芸術祭の展示部門及び上演部門を中止とするなど、入場者が大幅に減少したため、目標を大幅に下回る結果となった。令和4年度以降はコロナ禍においても実施ができる方策を模索していく。										
		O202 新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、臨時休館があり、入場者が大幅に減少したため、目標を大幅に下回る結果となった。令和4年度以降は感染状況を見極めながら、可能な限り通常開館できるよう努める。										
	R4	O201 新型コロナウイルス感染症の影響が減少し、令和3年度と比較して歴史・文化に関するイベントの来場者数は増加したが、目標値には至らなかった。今後も魅力ある歴史講座等を企画し、来場者数の増加を目指していきたい。										
		O202 木下圭太郎記念館・文化財管理センターとも前年度と比較して入場者数が増加したが、目標値には至らなかった。伊東市への来訪者数の減少などの影響を受けたと考えられるが、今後も企画展等のイベント開催によって入館者数の増加に努める。										
	R5	O201 実績値が前年度を上回ったものの、目標値には至らなかった。引き続き魅力ある歴史講座等を企画し、来場者数の増加を目指していきたい。										
		O202 実績値が前年度を上回ったものの、目標値には至らなかった。今後も企画展等のイベント開催によって入館者数の増加に努める。										
	R6	O201 実績値が前年度を上回ったものの、目標値には至らなかった。引き続き魅力ある歴史講座等を企画し、来場者数の増加を目指していきたい。										
		O202 実績値が前年度を上回ったものの、目標値には至らなかった。今後も企画展等のイベント開催によって入館者数の増加に努める。										

O3 芸術文化活動の支援			達成状況	指標数	2	2	2	2	2		
				達成数	0	0	0	0	0		
				達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
主な内容		管理指標	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
O301 芸術文化団体等の支援		文化協会 加盟団体数	R1	目標値	79	80	81	82	83	団体	生涯学 習課
			78団体	実績値	68	66	70	66			
				評 価	× 未達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成			
O302 芸術文化に取り組む個人の支援		芸術祭 参加者数	R1	目標値	1,150	1,175	1,200	1,225	1,250	人	生涯学 習課
			1,136人	実績値	118	928	981	1,062			
				評 価	× 未達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成			
年度 評価	R3	O301 新型コロナウイルス感染症予防のため、活動の自粛を行ったことから、加盟団体数の増加が見られなかった。引き続き加盟団体への支援及び新規加盟促進を図っていく。									
		O302 新型コロナウイルス感染症予防のため、展示部門及び上演部門を中止としたことから、目標値を大幅に下回る結果となった。令和4年度以降はコロナ禍においても実施ができる方策を模索していく。									
	R4	O301 新型コロナウイルス感染症による行動制限は縮小したものの、活動の自粛が続き、加盟団体数の増加が見られなかった。継続して加盟団体への支援及び新規加盟促進を図っていく。									
		O302 3年ぶりに芸術祭を開催することができたが、新型コロナウイルス感染症の影響等により参加者数は目標値に至らなかった。令和5年度以降は情報発信等を積極的に行い、より魅力ある芸術祭を目指していきたい。									
	R5	O301 実績値が前年度を上回ったものの、目標値には至らなかった。継続して加盟団体への支援及び新規加盟促進を図っていく。									
		O302 実績値が前年度を上回ったものの、目標値には至らなかった。引き続き情報発信等を積極的に行い、より魅力ある芸術祭を目指していきたい。									
	R6	O301 脱退する団体がある一方で、新規加盟団体も見られる。今後も継続して新規加盟を促進し、団体数増加を図っていく。									
		O302 実績値が前年度を上回ったものの、目標値には至らなかった。積極的な広報に努め、参加者の増加を目指していきたい。									

O4 文化拠点となる場の整備			達成状況	指標数	1	1	1	1	1		
				達成数	1	1	1	1	0		
				達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%		
主な内容		管理指標	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
O401	文化拠点となる場の整備に向けた調査・研究	文化拠点となる場の整備に向けた調査・研究の実施の有無	－ ※7	目標値	実施	実施	実施	実施	実施		企画課
				実績値	実施	実施	実施	実施			
				評 価	○ 達成	○ 達成	○ 達成	○ 達成			
R3	O401	内閣府が実施するPPP/PFI事業に関する企画・構想の事業化支援の採択を受け、教育文化施設建設事業の方向性、事業スキーム、検討課題、検討工程及び関係部局の関与のあり方等の整理を行うとともに、PPP/PFI手法の導入に向けた関係者の理解を醸成するための勉強会を開催した。また、ふじのくに官民連携実践塾を通じて、サウンディング型市場調査を実施し、民間事業者が参画可能な事業スキームを確認した。令和4年度以降についても、引き続き、PPP/PFI手法の導入に向けた調査・研究を進めていく。									
R4	O401	生涯学習課と建築住宅課において神奈川県小田原市にある「小田原市民ホール（通称：三の丸ホール）」に先進地視察を実施した。令和5年度以降についても、引き続き、PPP/PFI手法の導入に向けた調査・研究を進めていく。									
R5	O401	PPP/PFI事業に精通したコンサルティング会社を招き、幹部職員を対象としたPFI事業を活用した公共施設の整備・運営に関する勉強会を開催した。令和6年度以降についても、引き続き、PPP/PFI手法の導入に向けた調査・研究を進めていく。									
R6	O401	「図書館・文化ホール建設に向けた検討会最終報告（令和2年12月）」をベースに、次年度（令和7年度）以降に予定している建設候補地を選定するための事業スキームの検討を行った。									

※7 令和3年度から新たに実施するものであるため、基準値を一とした。

2 基本的な取組（2桁コード）・主な内容（4桁コード）				※ 基本的な取組・主な内容の達成状況							
				指標数	3	3	2	2	2		
				達成数	0	0	0	0	0		
				達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
O1 郷土愛醸成に向けた連携の推進			達成状況	指標数	3	3	2	2	2		
				達成数	0	0	0	0	0		
				達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
主な内容		管理指標	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
O101	高校・行政との連携事業の推進	高校と連携した事業数	R1	目標値	23	24	26	28	30	事業	企画課
			22事業	実績値	16	15	22	15			
			評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成				
O102	高校・行政・関係団体等との連携の推進	高校・関係団体等と連携した事業数	R1	目標値	11	12	13	14	15	事業	企画課
			9事業	実績値	4	10	10	5			
			評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成	× 未達成				
O103	高校生おもてなし特派員事業の更なる推進	開催日数	R1	目標値	10	8	—	—	—	日	観光課
			9日	実績値	6	5	—	—	—		
			評価	× 未達成	× 未達成				以上		
R3	O101 高校との連携を深め、郷土愛醸成に必要な取組に努めていく。										
	O102 高校と関係団体との連携を深め、郷土愛醸成に必要な取組に努めていく。										
	O103 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、各種観光イベントの中止を余儀なくされ、特派員の体験（従事）機会が失われた。高校生をイベント等に従事させるには、感染状況の平穏化が待たれることから、実情に合わせてR4以降の目標値を修正した。										
R4	O101	目標値に至らなかったため、市内3校が統合した伊豆伊東高校で実施されている総合的な探求の時間「未来学」や課題研究「地域戦略論」のほか、連携の可能性がある校内事業の掘り起こしを行うことで、生徒達の郷土愛につながる取組を増やしていく。									
	O102	前年度の数値よりも数値が上回ったことは評価できるが、目標値には至らなかったため、高校と関係団体との連携を深め、郷土愛醸成に必要な取組に努めていく。									
	O103	本年度においても未だ新型コロナウイルス感染症が平穏化されなかったことから、対外的な交流や観光ボランティアへの依頼を見送ったことにより特派員の体験（従事）機会が失われた。なお、本事業が令和5年度から廃止となったこと及び本事業に変わりうる事業がないことなどから目標値を見直す。									
R5	O101	目標値を達成できなかったが、前年度実績値を上回ったことは評価できる。引き続き、高校との連携の可能性がある事業の掘り起こしを行い、生徒達の郷土愛につながる取組を増やしていく。									
	O102	高校と関係団体との連携を深め、郷土愛醸成に必要な取組に努めていく。									
	O103	本事業の中心を担っている伊豆伊東高校において、学校主体で民間企業等と対外的な交流を行っていることから、本事業は廃止とするが、引き続き、本市が高校生と連携して実施する新たな事業について検討を続けていく。									
R6	O101	目標値を達成できなかったため、伊豆伊東高校で実施されている総合的な探求の時間「みらい学」において、2047年の市制施行100周年を見据えた「伊東市長期ビジョン」を周知するほか、将来的に連携が可能な事業等について模索するなど、生徒達の郷土愛につながる取組を増やしていく。									
	O102	令和5年度に市内3校が統合したことに伴い、高校・行政・関係団体が相互に連携する機会が減りつつあるため、各々の役割分担を再認識する中、地域課題の解決に向けた取組を進め、郷土愛の醸成に努めていく。									